



# 青葉区民会議ニュース

<http://www.aobakuminkaigi.com/>

2004年  
8月20日  
区民のつどい  
特集号

## 区民と区役所職員が同じテーブルで話し合い

# 青葉区民のつどい開催



区役所会議室一杯の参加者



中田市長

中田市長は区民のつどいにビデオメッセージを寄せ「協働の時代、市民の市政参加と区民会議の役割の重要性を強調しました。」

青葉区民のつどいは七月二十四日（土）午後一時半から青葉区役所大会議室で開催。区民と区役所職員合計一七五人が参加。立場を越えて同じテーブルを囲み「青葉区のみちづくり」について熱心に話し合いました。  
第一部では、冒頭、青葉区民会議佐々木代表、青葉区連合自治会長会松沢会長の挨拶、5人の参加市議、県議の紹介がありました。



橋本青葉区長

つづいて橋本青葉区長が今年度の青葉区政の取組みを二五分間にわたり説明、区民の理解を求めました。（詳しくは広報紙「あおば」や区役所のホームページをご覧ください）

更に青葉区で進められている協働の事例が映像で報告されました。

### 第二部 分科会

「みんな考える青葉区のみちづくり」区民と区役所職員がワークショップ、全員が発言

「地域で考える子育て・教育」  
「安心・安全・うるおいのあるまちづくり」  
「あつたらしいなこんな施設」  
「わかりやすい窓口／ほしいサービス・いらぬサービス」

参加者が四つの部屋にわかれ、それぞれ三つのテーブルを十数人づつが囲みワークショップを行いました。区民と職員が分担し協力をして進め、全ての参加者が発言し、アイデアを出し話し合いました。その結果六百を超える意見がカードに書かれて提出されました。区民会議ではこれ等の意見を元に区政への提言に生かしていきます。また、職員が多数の区民と同じ目線で話し合ったことで、区民の意見



分科会 話し合いに熱が入る

がより反映しやすい区政が実現されることが期待されます。

### 地域で考える

#### 子育て・教育

最初に学校支援・連携担当課長の山田さんから、子育て・教育関係の区政方針について説明を聞き、その後、子育て・教育の課題、解決方法について話し合いました。

昨年に続き二回目ということもあり、ワークショップが大変スムーズに行われました。

課題として健全な子育て環境の整備、子育てする母親のサポート、小・中学生の放課後の居場所づくり、家庭の教育力（父親の教育参加）、学校と地域の関わり合い等があげられました。

いずれも切実な問題で、かつ皆が何となく気が付いていないが十分な解決方法を実行していないものばかりです。また、「総合学習」プログラムに関する混乱、教育に関して科学的な考察がなされていない、等もあげられました。

解決方法として、放課後の学校解放、

### 安心安全うるおいの

#### あるまちづくり

世代間交流、学校と地域の交流促進、父親の育児教室、シニアパワーの活用等があげられました。緊急を要する問題としては、ひきこもり、障害児の養育に関する相談機関の設置があげられました。三グループ共に、かなり似た課題、解決方法があげられていました。参加者は決して多くありませんが、区民の意見をかなり反映して話し合われていると思われれます。（参加二十四名 担当、藤本弘）

安心・安全の課題として、防犯面では、お互いの声かけや近所づきあいの必要性などがあげられ、地域におけるコミュニティ意識の希薄さがうかがえました。安全面では、交通を阻害する放置自転車や歩道のはみ出し看板、住宅地への車の進入の危険性があげられました。

「青葉区らしきコミュニティ作り」を目指し、防犯パトロール、ユニークなワンちゃんパトロール、防犯効果を期待して住宅街では夜間の門灯をお互い消さない、商店街との話し合いを含めた違法駐車取り締まり自主パトロール隊、などが出されました。

地域防犯力を上げるための挨拶運動や、隣人への声かけ運動の広がり、地域住民の再認識にもつながり、子育て世代の親子のひきこもり「カプセル親子」や高齢者のひきこもりなどの解消への足がかりになるのではないかと話し合われました。

また隣近所で花を分け合う地域の取り組みは、うるおいのあるまちへの（裏面につづく）

(表面からつづき)  
 やさしい第一歩として紹介されました。市民がすぐにでもできそうな提案が数多くありました。実現するために、「制度として支援」「情報提供」「PRを区が積極的に行う」といった行政と市民の協働の取り組みが必要であるとの意見も出されました。

市民一人ひとりや地域での取り組みの必要性が多く語られました。行政がどのように協働で取り組むことができるのかは、今後の課題として残りました。

(参加四十五名 担当 小池由美)

### あったらいいなこんな施設

横浜北部の三十万都市にふさわしい施設、まちのあり方を話し合いました。

地区センターなど公的な施設が地域的に偏在している、人口増に対応できていない、文化活動の施設が少なすぎる、図書館がもう一つは必要、地域に市民活動や高齢者など多世代が交流する場がある、別館が閉鎖され、その代替の「まちづくり館」では到底収容しきれない、どうするのか、など様々な要望、意見が出されました。

一方で、区役所を始め地区センター、ケアプラザ、コミュニティハウス、自治会館など公的施設が有効利用されていないのではないかと指摘もあり、利用状況を点検公表し、もっと活用をはかるべきだとの問題提起がありました。

そのためには1つを活用して施設の空き状況を知らせる、民間施設の情報も知らせたほうがいい、などいろいろな解決策も出されました。

また、施設の駐車場併設について強い要望があります。むしろ巡回バスなど公的交通機関の導入が必要ではないか、身近な地区センターに行政サービスコーナーがあればいい、などの意見が出されました。

更に、公会堂の利用について、区内の学校や

青葉区民の優先利用を認めないのは設置目的に反していると、改善を求める声が多数だされました。

(参加三十六名 担当 中谷英世)



協力しながら意見を整理する  
 区役所職員と区民会議委員

### わかりやすい窓口 ～ほしいサービス～

他の分科会に比べ、職員が多数参加したこともあり、行政サービスの最前線に立つ職員と区民とが、日ごろの思いを率直にぶつけ合い共有しあうことができました。

分科会では、まず「わかりやすい窓口とはどんな窓口なんだろう」と話し合いました。

鉄道やバス、デパート、銀行など、日常生活の中に窓口サービス向上のヒントがあるのでは、手続きに来る人が気軽に相談できるフロアサポーター、必要な手続きの全体の流れが簡単につかめる総合窓口、などのアイデアが出ました。

次に、「ほしいサービス」については、区民が考える必要なサービスと職員が考えるサービスがズレていないか、コストに見合ったサービスという意識を常に持つてほしい、という区民からの提案がありました。住民でできることは住民に任せてほしい、という意見に、職員も大いに刺激された様子でした。

(参加四十名 担当 黒須裕章)

### ワークショップリーダー担当の 区役所職員の感想

#### 「地域で考える子育て教育」リーダー

★サービス課子とも家庭支援担当 木村さん  
 残念ながら四つの分科会のなかでは一番参加者数が少なかったようです。区民のつどいに参加する子育て世代の方がまだまだ少ないせいもあるでしょう。ですが、一グループ八名ほどで乳幼児期から学齢期にかけての地域の問題に関わるキーワードはいくつか見えてきたと思います。

今後このアイデアをどう具体化していくか、もつと議論したいと思つた一時間半でした。

#### 「あったらいいなこんな施設」リーダー

★福祉保健課事業企画係 相田さん  
 一般的に施設の整備や運営に関しては、行政に対する要望が多くなりがちですが、学校施設の活用や経験を持つた高齢者の活用など多方面からの提案がありました。

特に、今ある施設が有効に活用されているのか、もつと効率的に活用できるのではないかとつた提案があり、区民と行政の協働によつてどのような取り組みができるか考えさせられました。

#### 「あったらいいなこんな施設」リーダー

★戸籍課登録係 新藤さん  
 六〇分という時間は予想以上に短い時間でした。ポストイットで出された皆さんの意見を取りあえず集約しましたが、意見交換を十分に踏まえたものに仕上がつたとは言えません。

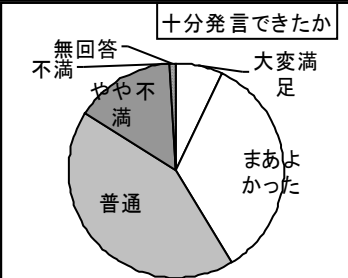
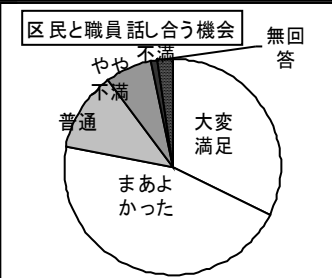
ワークショップは青葉区民のつどいの「売り」でした。次年度は、全体会のプログラムを大胆にカットし、分科会の時間に当てることも一案ではないでしょうか。

#### 「わかりやすい窓口」リーダー

★地域振興課生涯学習支援係 武居さん  
 テーマのせいか、一般の区民の方の割合は少なめでしたが、窓口職場の区職員を中心に、活発に意見交換をしました。テーブルリーダーとしての力量不足もありましたが、ごく一部の方にワークショップ方式への理解が得られていなかったことが残念です。

### 参加者のほとんどが「市民と職員の話し合い」を高く評価！ 話し合いの充実が課題

参加一七五名のうち、八七名の方から回答をいただきました。全体の感想では、大変満足している8%、まあよかつた51%、普通29%、やや不満・不満が4%で、概ね評価を頂いたと思えます。



「区民と職員が話し合う」といって大変満足32%、まあよかつた47%、普通11%、やや不満・不満が8%で、「よい」が合わせて80%近くもあり、区民と行政双方とも、対話の機会が必要としているといえます。

しかし、「役にたつた意見が聞けたか」は、大変満足11%、まあよかつた49%、普通60%でした。「十分発言出来たか」は、大変満足7%、まあよかつた34%、普通43%、やや不満が15%で、「よい」が41%と少なく、必ずしも十分ではなかつたようです。

自由記述でも、話し合いへの期待とともに、「時間が足りない、十分課題が煮詰まらなかつた」との声もあり、話し合いをより充実させるために、時間のとりかた、進行、テーマ設定など検討が必要といえます。

ワークショップの意見、アンケートデータは全て区民会議ホームページに掲載します。